

役員懇談会（経営者セミナー） 開催報告

令和7年5月22日、JISAでは、「生成AI技術の社会的活用にかかる提言 アクションプラン」でも中心的な課題に据えた「人材育成」や「人的資本経営」をテーマに、役員懇談会（経営者セミナー）を開催した。今回は、JISA 役員のみならず、広く会員がオンラインで聴講できるよう、JISA 会議室と Zoom でのハイブリッドにて行った。参加者は131名（うち、JISA 役員24名）。

開会にあたり、福永哲弥会長が、「社会経済情勢や生成AIを始めとした先端デジタル技術の急激な変化の中で、劇的とも言える事業環境変化に直面している。事業計画に掲げたように、従来の労働集約型から価値創造型事業へと事業の質的な転換が必要である。労働集約型事業から脱却するといっても、経営資源のうち最重要資源が人材であることに変わりはない。今日、デジタル人材の育成力と人的資本経営の重要性が問われている。本日のご講演を新たな事業モデルや経営のあり方を考える一助にしたい。」と挨拶を行った。



JISA 福永哲弥 会長



(株)NTT データ経営研究所
主席研究員 エグゼグティブ・コンサルタント
三谷慶一郎氏

続いて、三谷慶一郎氏（(株)NTT データ経営研究所 主席研究員 エグゼグティブ・コンサルタント）が、「生成AI時代に求められるデジタル人材のあり方」をテーマに講演を行った。講演では、「日本のデジタル化の根本的な問題は、デジタル投資が全く増えていないこと。そして、デジタル技術の活用が十分な効果創出に結びついていないこと。これらが、負の連鎖に陥っていることだ。デジタル投資から大きな効果を引き出せる人材、具体的には、業務改革の仕組みを作り出す人材、デザイン思考や、データマネジメントによる高度な生成AI活用によって「新しいビジネス」を作り出す人材が必要。また、そういう人材が活躍しやすい場として「スキルベース社会」を目指すことも

大事。JISA として注力すべきポイントは、各会員企業がデジタル人材育成に取り組むと同時に人材のスキルの可視化に取り組むこと、JISA がデジタル人材に関するデータベースを整備し活用することも有効な選択肢である」と述べた。

次に、佐々木裕子氏（(株)チェンジウェーブグループ 代表取締役社長）が、「人的資本経営の本質とは」をテーマに講演を行った。講演では、「今日、人的資本経営の取組を始めている企業はあるものの、成果創出はこれからであり、企業価値向上につながる戦略設計と実行力が問われている。人と組織の持っている潜在力をいかに最大限引き出すことができるかが肝要である。潜在的な変革レバーとして、テクノロジーの活用や挑み学び続ける人と組織の構築が挙げられる。AI等のテクノロジー活用の巧拙は人と組織の可能性を広げ得る一方、今も将来も重要なコアスキルの大半が挑戦・学び・社会的非認知能力であると指摘するレポートもある。小さな成功体験の積み重ね、創造性を発揮するメカニズムへの気づき、仕事のメリハリやバランス（余白と集中）、多様性、心理的安全性は、人的資本経営を実践する上でとても重要である。加えて、人と組織の持っている潜在力を最大限引き出すには、各組織のリーダーの組織運営、行動モデルの影響が極めて大きい。挑戦し、学び続ける人・組織・行動を自然に生み出し続ける仕掛けの構築（リーダーモデル 2.0）の浸透、経営層の本気度と一貫した経営スタンスが鍵。」と述べた。



(株)チェンジウェーブグループ
代表取締役社長
佐々木裕子氏

セミナー終了後、懇親会を開催した。冒頭、三好一郎理事（情報技術開発（株）代表取締役社長）が開会挨拶に立ち、「デジタル人材・人的資本経営は、定着すべき課題。やっているつもりでいたが、講演から刺激をいただいた。」と述べた。



懇親会

懇親会の最後は、東川淳紀理事（(株) 網屋 執行役員）から「経済産業省で一步踏み込んだ仕組みを作るのであれば、JISAとしても対応する組織を作った方が動きやすい。ご講演を踏まえ、人的資本経営を一段上のレベルに上げていくことが必要。本日は、とても楽しく、宿題が多い有意義な会になった。」と挨拶があり、一本締めにて閉会した。

（役員懇談会事務局）